コミュニティ・スクール情報

２０２３．６．１６

令和５年度　　第１回三川町学校運営協議会　議事録

◇ 月日：令 和 ５ 年 ６ 月 １ 日 （ 木 ）
◇ 時間：１ ８ ： ３ ０ ～ ２ ０ ： ３ ０
◇ 場所：三川町子育て交流施設「テオトル」

【　全 体 会　】　　進行＝笹原　大指導主事

・学校運営協議会の委員委嘱　代表＝佐藤　功夫様
・教育委員会、コーディネーターの自己紹介

学校運営協議会
１．教育長あいさつ　　齋藤　正志 教育長
２．説　明　　笹原　大 指導主事
・協議会のあらましと今年度の予定について
・その他

【 学校区分科会 】　横山（ホール）　東郷（ステージ）　押切（ホワイエ）　中学校（会議室）
座長＝各学校区会長
各校長先生

３．学校運営方針の説明
４．学校運営方針への質問と承認
５．全体テーマ「特色を生かした学校運営と地域のサポート」
今年度の各協議会熟議テーマを決める

横山っ子ネットワーク協議会

◎令和５年度学校運営方針の説明　（　大塚　優　校長　）

・２月に、前校長から協議会で今年度改善する点については話があったと思うが、それを引き継いでいるので、今年度どのように取り組んでいくのかを中心に説明させていただく。
・学校教育目標については継続していく。令和５年度に向けて大切にしたいこととして２つ引き継いでいまる。１つ目は「めあてを明確にした教育課程の見つめ直し」として２項目。分かりやすいのは「子どもが主体になって取り組んでいく」小規模単学級なので縦割りでの仲の良さを生かした活動のこと。業界用語でわかりにくいのが「カリキュラムマネジメントへの移行」。そして、「教員の働き方改革」（時代への対

応）教員の不健康は、教育の質の低下につながる。子どもに向き合う心の余裕や時間の確保を必要としている。学習指導要領の改定から５年経ち次の改定が近づいてくる。世の中の変遷により、新たなカテゴリーが増加することで、教員に課せられる煩雑さを整理していかなければならない。

・引き継いだ教育課程の変更点として、授業参観を４回のうち２回は平日に実施。収穫感謝祭についてはPTA の方々と相談。相撲大会の検討。稲刈りの午前中実施。職員会議の効率化。月ごとのテストを廃止。文集の廃止。ICT 活用推進（タブレットの活用。先日の児童総会でも活用)。感謝の会は授業中に実施し、全体の行事としない。恩師を囲む会は創立１５０周年を控えているのでやらない。

・自分なりに学校運営の重点をフォーカス的に絞ってみた。

・５０年前の少年サンデーに載っていた「未来のコンピューター生活」（コンピューターが家庭にの特集）今の生活に似ている。描ける夢は実現できる。

・「内閣府ソサエティ５．０」＝地球の未来をともに切り拓こう

※　１．０＝狩猟社会、２．０＝農耕社会、３．０＝工業社会　４．０＝情報社会

「ウェブ３」＝分散型　国や人種を超えたコミュニケーション　ビットコイン（ブロックチェーン）

※Web１＝一方向、一部の人の情報発信、メールなど　Web2＝双方向自由に、多くの人が情報発信、画像や動画が中心

「チャット GPT」や人工知能の発達

今の子どもたちは、このような世の中で生活していくことになる。単純に覚えたりするようなことは機械にかなわない。「理想や目的をもちながら考える」ことが大切になる。授業中はいきいきと意見を出し合い、生活のことで困っている子がいたら自分の事のように考え、助け合い、遊ぶ時には、アイディアを出し合って「この指止まれ」といえる子に育ってほしい。横山の子は結構活発でこのイメージに近い。

・月例テストと文集がなくなることについて、全国学力状況調査（昨年度）の問題からわかる「期待する学力」の変遷についてだが、以前のような速く計算する力は求められていない。解き方や使い方、知恵が求められている。チャット GPT にしたとき、あれとあれとあれをくっつけるとこんな事ができるのではというような、広くて浅くて使える知識が必要とされる。また、課題を問い返す力が求められている。致道館高校の探究科もこのプロセスを大切にしたもの。ドリル型から、集団の学びで身につけられる。身につけた力は抜けにくい。月例テストに要していた時間を、集団による学びの時間にあてるため月例テストを廃止する。文集についても、生活文は求められていない。子どもの未来が不利にならないようにしたい。

・カリキュラムマネジメントについて、学校の運営方針に向け、職員全員で話し合いターゲットを絞ることをねらいとしている。例えば、「コミュニケーション能力」とした場合、全ての教科や行事を見つめ直すということ。田植えをやった。それで終わりではなく、田植えを通してコミュニケーション力をつけさせようと考えれば、調べさせようか分担させようかなどアプローチの仕方が違って活動が変わる。

・少子化が進む。一人ひとりの子どもを太くする。君も織田信長、僕も織田信長的教育。教科の内容を超えたコミュニケートする力。論理的な考えをもつ子をいっぱい育てる。みんなが「大谷翔平」を目指す。

◎質疑応答は特になく、今年度の学校運営方針は全会一致で承認されました。

◇今年度の熟議テーマについて　全体テーマ＝「特色を生かした学校運営と地域のサポート」
　決定した横山っ子ネットワーク協議会の熟議テーマ

『　LOVE　～自分・友だち・地域～　』

おらほの学校づくり協議会

◎令和５年度学校運営方針の説明　　（　海藤　陽子　校長　）

・今年度の子どもたちの様子だが、１年生２３名。全校生徒１３３名とった。昨年度より少し増えている。１年生も２ヶ月経ってだいぶ慣れてきた。６年生が１年生の面倒をよくみている。授業参観や PTA 総会も制限なしで実施できた。５月以降、手をつないだり、みんなで集まったり歌ったりすることも可能となった。田植えや、人権の花植え、連合陸上なども行った。連合陸上では、応援の仕方や競技技術なども意識した指導が感じられると褒められた。先日、新聞に載った金子みすゞ記念館館長さん矢崎先生の特別授業では、一人ひとりがかけがえのない存在であることを分かりやすく伝えて頂いた。感激した子どもも多かった。
・「思い描いた学校を共に創り上げる子ども」の学校教育目標。一人ひとりが思い描いた学校をつくる。多様な考えを共有する力。相手の考えも尊重し合って協働できる力。自分で行動に移し、児童が主体になって自分の学校をつくるという高い理想に向け６年間で育てる。
・教師側の学校像として、子どもだけでなく教師側も共に学校を創っていこう。そのためには、大人が上で子どもが下と言うことではなくて、人としてリスペクトし合って学校を創っていこう。そのためには、子どもとの信頼関係を結び、安心して挑戦できる場を設定する。児童の自己肯定感を高める指導を行っていこうとしている。
・重点として、「夢をもって挑戦できる学校創り」共にということで、「違いを乗り越え協働できる学校創り」「児童主体の授業創り」「地域に貢献できる学校創り」としている。
・今年度、昨年度の反省を生かしてカリキュラムマネジメントに取り組みたい。（具現化）
・子どもたちに「学校を創っていくとは」を年度始めに考えさせた。昨年度効果があった取り組みをみんなでやってみようとしている。（発達段階等への配慮をしつつ）

・PTA の改編についても取り組んでいる。
・今年度実施の NRT テスト偏差値をみると、児童主体の授業を多く取り入れた学年の方が高い数値を示している。基礎的な力の育成のため、課題を出して頑張った学年があったが、思いのほか成果に結びついていなかった。やらされるという勉強より、課題を自分で見つけ取り組むことの大切さを再確認している。
・「学校を創るとは」子ども一人ひとりが付箋に書き確認し合った。課題が出てきたら、そのことを再度確認し合いながら生活を進めていくこととしている。
・家庭学習のやり方では、自分で計画して行い、テストし、さらに分析して、より効果的な方向を考えていくことにも挑戦している学年もある。行動面でも、自分で考え、どのような行動をとったらよいのかを話し合いとシミュレーション化し行った。児童は、児童なりの考えをしっかりもって判断することができた。
（大瀧教頭より）
・昨年度より、PTA の組織改編について話題にし今年度施行してみている。主な内容として、PTA 活動の目標や考え方、学年活動および専門部の存続や廃止を含めた活動の内容、サポーター活動の運用について、
安心安全メール以外の連絡ツール等の検討などで、より児童との関わりや、学校を共に創るというねらいに対応した組織の改編をめざしている。
・役職に応じた活動から、自分が協力できるときに何回でも関わる事ができる活動への移行。今年度、施行しながら行っている。

◇委員からの質問や意見

○説明を聞いて、PTA の組織改編など、ここまでやっていただいていることに好感をもつ。PTA のサポーター活動が実を結んでいけば望ましい。「おやじの会」の今後は？
○「学校に行く」ということだけで緊張する時代を生きてきただけに、説明を聞いていてとても学校が身近に感じられている。
○共働きが多くなり学校との関わりが心配になる中での改編、検証し新たな道を探るのも大切。
○お世話になっている立場でみると、授業参観などで父親の割合も高く「行きやすい学校」になっている。
○PTA の役員に今年からなって不安もあったが、学校側の提案を聞くたび、自分がどのように子どもたちに関われるのかを考えるようになった。
○サポーター活動が保護者としてもワクワクしている。積極的に関わっていきたい。

◎今年度の学校運営方針は全会一致で承認されました。

◇今年度の熟議テーマについて　全体テーマ＝「特色を生かした学校運営と地域のサポート」
決定したおらほの学校づくり協議会の熟議テーマ

『　どの時代でも大切にすることと時代と共に変えていくこと』
～あいさつ、多様性～

こうふく押切っ子協議会

◎令和５年度学校運営方針の説明　　（　渡邉　　岳　校長　）

・地域の温かさの中で、素朴に誠実に、また、素直に育っている子どもたち。そのよさを学校運営にも生かしていけたらと考えている。
・国、県、町の方針を受け、本校では、「知・徳・体が調和した学校教育の実践」「子どもたちが生き生きと学び、地域と保護者から信頼される学校」「今日が楽しく、また明日来たくなる学校」をめざしている。
・学校目標は、「いのち輝き　かしこく　やさしく　たくましい　子どもの育成」創立 150 周年を見据え、創立以来引き継がれてきた思いを大切に、建学の心に立ち返り新たな押切小を築いていく。
・めざす学校像は、「今日が楽しく、また明日来たくなる学校」で、学校が楽しいところであってほしいというのは教職員の願いであり、今年度は、３つのキーワードを定めた。「子どもも大人も地域もニコニコワクワク・イキイキ」とし、「ニコニコ・ワクワク・イキイキ」とはどういうことなのか、子どもたちと一緒に話し合いながら目標を定めていこうとしている。
・めざす子ども像は、３つのキーワードで、（ニコニコ）＝笑顔きらめく子ども。（ワクワク）＝物事を自分事とし、本気で取り組む子ども。（イキイキ）＝しっかり動き、元気な子ども。今、学年に応じた具体的な姿を子どもたちと話し合いながら決めていきたいとしている。
・児童数は、112 名。昨年度より２名減少している。今後、横ばいながら増加する年もある。教員数は、24 名で若い先生が多い。職員室は明るく笑顔が絶えない。
・重点的取り組みとして、「学ぶ喜びを実感できる授業づくり」で、授業が分かることは学校が楽しいにつながる。今年度は、公開研究会の予定。２つめとして、「教育相談の充実」と「縦割り活動の絆づくり、学級の絆づくり」。保護者との面談機会を年５回設定し子どもたちの成長を話し合うことにしている。縦割りの活動も、コロナ禍で制限されていたものが、今年度は可能になったことで生かして行きたい。
・学習指導、生徒指導、健康指導に関わって家庭と連携して取り組むことを中心に説明します。
・学習指導について、本気で学ぶと「ワクワク」しますがキャッチフレーズ。学校研究を中核に、学び合いによる学ぶ楽しさとわかる実感がもてる魅力ある授業づくりをめざし新しい時代に対応した生きる力を育てます。家庭学習と家読みについて、家庭学習は、学年かける 10 分。プラス今年度読書を加えた。低学年は 10 分、中学年 15 分、高学年 20 分を目標に読書する時間を設定した。読書は、美しい言葉や優しい言葉など言葉を豊かにしてくれる。それが、心の安定につながる。言葉の乱れは、自分の気持ちを素直にあらわす言葉を知らないからと捉えた。
・生徒指導については、『みんななかよし「ニコニコ」笑顔』が合言葉。人との関わりのスタートである挨拶を大切にしたい。コロナ禍で挨拶の声も出なくなった。目を合わせての挨拶を推進していきたい。

教員集団で心がけている事として、ほめて育てる指導の推進。自分に自信が持てず、他との関わりから外れ一人でいることが楽に思う子もいる。「あなたがいて本当によかった」と自信を持たせたいと大人が伝えてやることが大切であると感じる。

・健康指導について、『健康第一！元気に「イキイキ」生活』が合言葉。生活習慣づくりで課題となっているのが、ゲームやメディアに関わる時間が多いことでスクリーンタイムを少なくする指導を家庭の協力で進めていきたい。２つめとして歯磨き指導。コロナ禍で校内での歯磨き活動ができなくなり歯肉炎の割合が増加傾向という課題がある。歯磨きの推進とよく噛む指導を進めたい。

・保護者や地域住民と情報を共有し、充実した連携を図る。コロナの制限がなくなり、学校に地域の人材活用を進めていきたい。クラブ活動の講師、ミシンや裁縫作業の講師など授業への地域の関りも深くしていきたい。

◇委員からの質問や意見

〇あいさつについては、以前より声が低くなったと感じていたので学校での取り組みに期待したい。

〇登下校中のマスクをしている児童が多い。

→児童のマスクは、なかなかはずれないなと感じている。教員からはずす手立ても必要かと感じている。

〇押切小学校に茶道を教えに行った経験があり、児童も大変喜んでくれたことを記憶している。学校で教えられないことを地域で教える。そんな活動をまた行ってみたい。

〇町内会の中で、子どもの名前がわからなくなっている。集まりのなかで、紹介したいが個人情報などの関係で進んではできないでいる。名簿はくるが、マル秘扱いになっているため、町内会でも戸惑うことがある。

〇ほめて育てる指導の推進に好感がもてる。

〇地域の方だけでなく、保護者の中にも、特技を生かして授業に協力できる人がいると思う。アンケートを取ってみるのもよいと思う。

◎今年度の学校運営方針は全会一致で承認されました。

◇今年度の熟議テーマについて　全体テーマ＝「特色を生かした学校運営と地域のサポート」

決定したこうふく押切っ子協議会の熟議テーマ

『　地域とのかかわりについて　』

三川中学校学校運営協議会

◎令和５年度学校運営方針の説明　　（　橘　　正敏　校長　）

・今年度の生徒数。１学年７１名。２学年７２名。３学年５９名。全校２０２名。昨年度より若干増加。普通学級７学級。特別支援学級３学級。計１０学級。特別支援学級が昨年度より１学級増。
・教員数は昨年度と同じとなっていることから教員の負担は増している。ALT は８月から、別室登校の職員を現在町に探してもらっている。全員揃うと３５名。
・三川中生の状況として昨年度の全国学習状況調査からみると、県や全国平均より高い強みとして、朝食を毎日食べている。将来の夢や目標を持っている。自然の中で遊ぶことや自然観察することがある。今住んでいる地域の行事に参加しているなどが上げられる。県や全国平均より１０ポイント以上劣る弱みとして自分にはよいところがある。先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。自分で決めたことはやり遂げようとしている。難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるなどが低くなっていた。
・育てたい生徒として、自他のいのちを大切にする生徒。夢や希望の実現に向け、努力する生徒。知恵を育み、たくましく生き抜く生徒。人とのかかわりと助け合いを大切にしながら、学び続けていく生徒。
・つけたい力として、情報を集め、分析し、判断し、行動（表現）する力。他の生徒と連携、協力する力。前に踏み出し、粘り強く取り組む力。他の人や地域、社会の事を考え、より良くしていこうとする姿勢、価値観。
・５月に生徒総会があった。勇気を出し、自分の意見を言う生徒が多くいたことを称賛した。また、駅伝大会で、一生懸命走り、応援し、お互いに拍手を送りあう姿を嬉しく感じた。
・『創りたい学校』を生徒の姿に焦点をあて変えている。『学びと成長　そして笑顔のあふれる学校』学校・家庭・地域との連携協働による「魅力ある学校づくり」の推進としている。学校での生活や経験は全て学びであり、そして成長につながる。結果にかかわらず充実感がもて笑顔があふれる学校にしたい。「魅力ある学校づくり」は町の事業として２か年に渡って取り組んできたが、小中連携で今後もすすめていく。
・「心豊かで賢くたくましい生徒の育成」の学校目標では、自律・共生にプラス「貢献」を加えた。
・重点的取り組みとして、高い同僚性をもとに、学び合い、研鑽し合う教職員集団をめざす。校内、校外研修等を通して、自己の資質向上を図ること。OJT（※経験豊富なベテラン教員が指導役となり、若手教員に知識や技能を身につけさせる取り組み）を活性化し、教育課題へ組織的な対応に努める。学年ごとに生徒の状況を確認し合い、魅力ある学校づくりに向け取り組み策を発表したりしながら、教職員の共通理解を図る研修などを実施した。昨年１２月、生徒指導提要（※小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等について、時代の変化に即して網羅的にまとめ、生徒指導の実践に際し教職員間や学校間で共通理解を図り、組織的・体系的な取組を進めることができるよう、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書として作成したもの）の改定があり、その研修も行っている。また、働き方改革を推進する。
・「魅力ある学校づくり」の推進については、学校、家庭、地域との協働による取り組みを推進する。生徒の「居場所づくり」と「絆づくり」。生徒の主体性を高める活動。生徒の自尊感情と自己有用感を高める活動を仕組み育てていきたい。

・「魅力ある学校づくり」とは、国は、「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」「授業に主体的に取り組んでいる」「授業がよくわかる」の４項目の割合を増やす。三川町の小中学校独自でさらに２項目を設定した。「自分には、よいところがある」「友達は、あなたのよいところを認めてくれる」（昨年は、友達のところが先生だった）方法としては、子どもの声調査（アンケート）の実施と分析。居場所づくり絆づくりの取り組み。学期ごとに PDCA サイクルで共通理解。
・生徒の声アンケートの課題として、授業に主体的に取り組むことと、授業がわかることのギャップを埋めること。「どちらかというとあてはまる」のパーセントを「あてはまる」に高めることが今後の取り組みの重点である。
・重点３として、生徒にとって学びのある授業を創る。生徒個々の思いや価値観を表出できる学級風土を醸成。生徒同士が知恵を絞りながら、学び合い、理解を深める授業づくりの推進。特別活動や総合的な学習において生き抜く力を育成。特に総合的な学習では、探究型学習を推進する。ICT 機器の活用で、生徒の力を最大限に引き出す学びの実現。スタディーサプリの活用。
・重点４、「寛容・共生・貢献」の心を育む教育活動を推進する。全教育活動を通して、他の生徒と協力していける生徒を育てる。地域との関わりを通して、地域への誇り、地域への貢献する心を高める。今年度町のボランティアサークル来夢来人に５９名（中高あわせて）が加入。なかよし三原則の確認など、生徒会、学年生徒会の取り組みを通して思いやり、共生の心を育む。行事のふり返りを通して、自分の成長と仲間の大切さを考えさせる。
・地域との協働については、持続可能なスポーツ・文化活動体制の確立。ボランティア活動や地域活動への参加。地域学習、キャリア教育の推進。わくわくワークへの参加、地域企業からの協力で職場体験の実施などに積極的に取り組んでいる。令和６年からの新制服への移行。
・いじめの認知件数と不登校人数について、昨年度より減少傾向にあるが、さらに個々に寄り添いながら取り組んでいきたい。

◇委員からの質問や意見

○地域とのつながりが、コロナ禍で少なくなったように感じていたが、学校運営方針の説明では、地域との関わりが多く感じられた。地元への貢献が大切と考えている。
→地域人材の活用。（校外テストの監督や家庭科での地域講師活用）
○わくわくワークと職場体験について
→わくわくワークは、前年度に申し込んだ県での取り組みであるが、職場体験と実施期間が近くなった。
○高校選択後でのキャリア教育では遅い。中学校年代でキャリア教育を実施し高校選択に結びつけていくことが、将来的に実になるのではないか。企業や職場でも効果を期待している。
○地域貢献として、町内会で中学生の結びつきが課題である。
○キャリア教育やわくわくワークは意義のあるものと考えるが、中学校年代でどれぐらい真剣に考えるかは疑問に思う。
○部活動の地域移行について、指導者の関係から、部活動の地域移行が本当に可能なのか疑問が残っている。まだ、地域の受け皿の体制づくりが不足している。
○育てたい力とつけたい力。人を理解してからでないと効果が期待されない。学校現場のなかで本当に可能かどうか難しい事と思う。

○情報収集能力と分析能力を同列に考えること自体に無理がある。情報収集ができても分析ができない子は多い。

◎今年度の学校運営方針は全会一致で承認されました。

◇今年度の熟議テーマについて　全体テーマ＝「特色を生かした学校運営と地域のサポート」
決定した三川中学校学校運営協議会の熟議テーマ

『　地域と中学校とのつながりの構築　』